

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>将来の福岡県の農業・生活産業を支える人材を育成する学校 都市近郊の広大な土地を生かした農業実習や、最先端の農業技術、時代の変化に応じた農業経営などの学習を通して、福岡県の農業や農業関連産業をけん引する次世代のリーダーを育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業・食品分野において、中核として活躍できる専門知識・技能を育成する。 豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を育成する。 グローバルな視野を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を育成する。
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実践的科目編成によって、課題解決能力の育成を図る。 国際理解教育を通して、多様性、言語能力を高める教育展開を行う。 主体的、対話的で深い学びに繋がる授業展開を実施する。
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 志を持ち、農業・食品の未来を創造する進路を希望するもの。 農業・食品及び地域の発展に貢献できるもの。 互いの多様性を認め、協働できるもの。

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>校訓「自彊」(自らすすんで努力し、励むこと)に基づいた学校経営を行う。 (1)高い志を持ち、知・徳・体のバランスの取れた、農業の未来を創造する学生の育成をめざす。 (2)農業及び地域産業の発展に貢献できる優れた人材の育成をめざす。</p>		<p>評価 (総合)</p>	
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>		
<p>【令和5年度の成果】 1 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により教育活動を概ね計画の通り実施できた。 2 進路実現のため、社会人招聘や外部研修等を実施し、キャリア教育の充実を図った。学年及び各専攻が進路指導部と連携し、2学年の希望進路実現に取り組むことができた。 3 オープンキャンパス、学園祭では、学生が主体的に活動し、本科の教育活動を来場者に伝えることができた。また、HPの専攻科日記の日々の更新やInstagramを利用した広報活動は効果的な情報発信につながった。 【令和5年度の課題】 1 専門性を生かした進路を選択し、中核として活躍できるよう、特別非常勤講師と連携した講義、研究を行い、より高度な専門性を身に付けさせる。 2 社会の変化と時代のニーズにあった教育活動を実施するために、教員の研究や研修を計画的、継続的に実施する。 3 専攻科の教育活動をより広く、伝えるためにSNSの活用など広報活動を工夫するとともに、各農業高校に専攻科の研究成果等を還元する取組を実施することで魅力発信に努める。</p>	<p>社会の進展に対応した魅力ある教育活動の実施に努めるとともに、技術革新、国際化、情報化に対応できる実践的能力を育成する。</p>	<p>「専攻科実験実習」や「卒業研究」を通して、確かな知識・技術の習得を図るとともに、科学的思考力やプレゼンテーション能力を育成する場面を作る。</p>		
	<p>新カリキュラムの特性を効果的に活用し、学生の特性・適性に応じた進路支援を推進することで、専門性を生かした進路実現を支援する。</p>	<p>特別非常勤講師と正規教職員が連携し、教科横断的な授業展開を実施する。専門性を生かした多様な進路実現(大学編入も含む)に向けた指導を行う。卒業生講話やインターンシップを実施する。</p>		<p>特別非常勤講師と正規教職員が連携し、教科横断的な授業展開を実施する。専門性を生かした多様な進路実現(大学編入も含む)に向けた指導を行う。卒業生講話やインターンシップを実施する。</p>
	<p>教員の個人研究や専門性向上のための研修を推奨し、授業改善と教科指導力の向上を図る。</p>	<p>研修会の参加や企業、大学視察を通して先進的農業や先端研究などの情報収集に努め、研究紀要への投稿や校内研修会を実施し、職員相互の資質向上を図る。</p>		<p>研修会の参加や企業、大学視察を通して先進的農業や先端研究などの情報収集に努め、研究紀要への投稿や校内研修会を実施し、職員相互の資質向上を図る。</p>
	<p>幅広い高校を対象として積極的な広報活動を行い、専攻科の魅力ある教育内容を発信する。</p>	<p>学校訪問、オープンキャンパス、進路ガイダンスや出前授業を実施する。HP及びSNSを用いた情報発信を行い、魅力を発信する。専攻科の持つ知識や成果を地域や高校に積極的に還元する。また、専攻科特別講義を実施することで、農業高校の生徒の学びを充実させる。</p>		<p>学校訪問、オープンキャンパス、進路ガイダンスや出前授業を実施する。HP及びSNSを用いた情報発信を行い、魅力を発信する。専攻科の持つ知識や成果を地域や高校に積極的に還元する。また、専攻科特別講義を実施することで、農業高校の生徒の学びを充実させる。</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等
教務	入学志願者の増加を図り、定員を確保する	各専攻に対して専攻科日記への月1回以上の掲載を依頼する。 高校の進路ガイダンスへの参入を依頼する。 出前授業や探究の時間等を使った講義など高校との連携を模索する。	オープンキャンパスや専攻科特別講義におけるアンケート	
	教務規範を遵守する	洪水や災害による遅延に対する時間補充の措置を考える。 学生にむけて教務規定改訂の周知を図るとともに職員の共通認識を得る。 授業アンケートをとり、結果を職員に配布し、授業改善を促す。	授業アンケート(年2回)	
生活指導	大人として自覚ある行動ができ、社会で通用する能力を有する学生を育成する。	成人として学生を育成する指導、支援を随時行う。 豊かな人間性及び社会で通用する能力を養わせる指導、支援を行う。 職員集団が学生に大人としての対応等が見受けられる環境を構築する。	日頃の指導、支援の方法や満足度に関する調査	
	校友会組織の活性化を図り、充実度を80%以上目指す。	校友会を中心に、学生が主体的に活動できる自治活動組織となるよう指導、支援を行う。 全学生が目標達成に向けて見通しを持って行動できる組織となるよう指導、支援を行う。 校友会で行う行事をさらに充実させ、外部へ活動内容を発信する。	校友会活動の充実度に関する調査等	
進路指導	学生が希望する進路の早期決定を目指す。	企業や大学の説明会等の開催情報をいち早く入手し、学生に公開する。また学生自身の情報収集活動も促す。 担任、及び学科専攻の職員と連携し学生の進路希望を集約し、職員が情報を共有し支援する。 学生の就職活動、進学活動に有効な支援事業を企画する。	各学年で進路希望調査を行い一覧表を作成する。 活動に関する一覧表は職員が閲覧可能な状態にする。 支援事業については毎回、アンケート等を書いてもらい今後の事業の参考とする。	
	適切な受験指導を行い、合わせて社会人に必要なマナーの習得も促す。	スマートフォンやPCによるWEBでの説明会・面接に対応できるように支援し、利用に関するマナー指導も行う。 企業や大学の説明会などに参加するための事前指導や事後指導を行い、スキルアップに繋げる。 就職試験・進学試験等の受験指導を専攻・学科を中心に連携して行い、7月までに70%の合格を目指す。	就職・進学説明会、及び受験報告等、報告書の作成をしっかりと行い、今後の参考資料とする。 定期的に進路調査を行い、未定者を支援する。	
庶務	70周年記念事業の充実を図る。後援会活動の充実を図る。同窓会総会の充実を図る。	70周年記念事業の研修先を3か所以上設定することで、研修内容を充実させる。 専攻科の教育活動をご理解いただくために、後援会総会への出席率4割以上を目指す。 専攻科卒業生のうち教育関係者の所属先を明らかにし、同窓会総会の出席者数10名以上を目指す。	70周年記念事業研修旅行の内容・改善点についての調査 総会の内容についての調査	
	諸行事のスムーズな運営を図る。	学生・職員・後援会・同窓会・事務室など各関係部署と連携を取りながら、約1か月前には行事の準備を行う。 週に1回庶務会議を行い、役割分担や進捗状況を確認することでスムーズな行事の進行に努める。 行事終了後にアンケートを取ることで、次年度の行事をより充実させる。	行事の内容・進行(準備)・改善点についての調査	
1学年	成人としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようになる。	学校中心の生活習慣、体調管理ができるよう促し、出席率90%を目標にする。 前期・後期2回以上の面談を行い、自身の行動を改善させる。 掲示板を見て行動するよう指示し、直接の連絡は必要最低限にする。	社会性、協調性が身に付いているかの確認。授業アンケートから授業への取り組みを推察。	
	進路目標を早期に決め、具体的に行動できるようにする。	適時面談を行い、進路について具体的に考えさせる。 前期で50%以上、後期80%以上の学生に具体的な進路目標を決定させる。 進路部と連携し、具体的な企業とそれに応じた対策を立て指導する。	進路希望調査から意識度を判断。	
2学年	自身の行動に責任を持ち、社会に通用出来る学生を100%育成する。	1年次よりさらに成人として責任ある行動ができるよう、各種ツールを活用しながら指導、支援を行う。 個々の目標達成に向けた見通しを自ら立て、実行できる能力を養わせ、更なる飛躍につなげることのできる指導、支援を行う。 職員が学生個々の課題を発見し、学生へ明確に伝えたと同時に、改善に向けた指導、支援を充実させる。	指導、支援の方法やタイミング、満足度に関する調査	
	1年次に行ったキャリア教育を基盤にして、8月までに80%以上、12月までに90%以上の進路決定を目指す。	担任及び各専攻職員並びに進路指導部と学生の情報を随時共有し、状況に応じた個別対応を行う。 普段から学生とコミュニケーションを図り、個々の進路活動状況を把握し、必要に応じて指導、支援を行う。 進学及び就職に関する情報をクラスで提示し、併せて学生への周知を徹底する。	進路活動の指導、支援の方法や満足度に関する調査	
生物生産科	専攻科の学習内容を生かし、個々の学生の特性に応じたきめ細やかな進路指導を実施する。	週1回学科会議を行い、学生の状況等を全員が把握する。 進路部と連携し、具体的な企業とそれに応じた対策を立て指導する。 学生自身の進路に対する現状を認識させ、職員とともに何をすべきか検討する。	進路希望調査から意識度を判断。就職活動の状況把握を学科会議で行う。	
	新教育課程に対応した教育活動と効果の上がる教育内容を実施する。	各専攻で特色のある授業内容を構築し、実践する。 ICTを活用した教育を各科目で行うようにする。 授業アンケートの結果を参考に授業の改善を図る。	授業アンケートを活用する	
食品工学科	学科全体の専門性を高め、学科の充実度を80%以上目指す。	卒業研究、専攻実験実習及び専門科目を通して、科学的な視点を持たせ、専門的知識及び技術を習得させる。 学生が主体的に活動できる環境を確立させ、問題解決能力を習得させる指導、支援を行う。 学生の実態を把握したうえで学科の独自性を見出し、学生、職員ともに向上できるような活動を行う。	教科指導や卒業研究指導の充実度に関する調査	
	食品関連産業への進路実現80%以上を目指す。	食品分野に関連した資格情報を学生に周知し、必要に応じて取得に向けた支援を行う。 専攻を中心に学科全体で学生の実態に応じた進路指導、支援を行う。また、学生へアンケート調査を実施する。 専門性を活かした進路先の充実を図るために、企業へ訪問や研修に向かい、企業との関係を構築する。	進路活動の指導、支援の方法や満足度に関する調査	